

ご協力いただいた乾癬の患者さんへ

研究報告 2022-2023

NPO 法人西日本炎症性皮膚疾患研究会



photo by Shinichi

4年間で2,440名の方にご協力いただきました

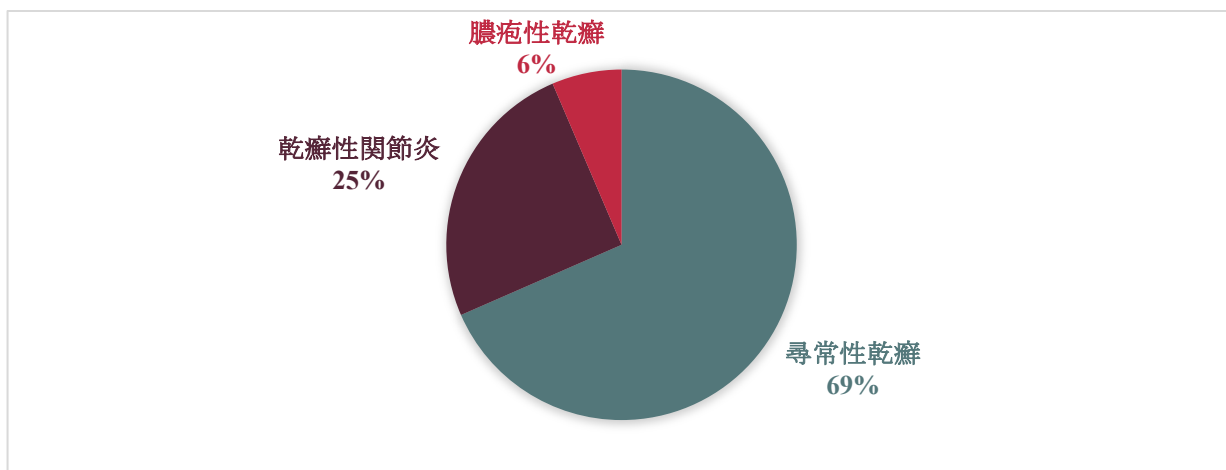
乾癬の患者さんを対象とした大規模調査は4年目となりました。2022年12月までに延べ2,440名の方に参加していただきました。皆様のご協力に深く感謝し、今年も研究報告を作成しました。このデータが皆さんの乾癬治療のお役に立つことができましたら幸いです。

年1回の継続調査(アンケート)にご協力ください

本研究では年に1回、患者さんを対象に継続調査(アンケート)を実施しています。現在の乾癬の病状や治療についてお聞かせください。結果はまた来年ご報告します。

乾癬の病型(タイプ)

全体 2,440 名

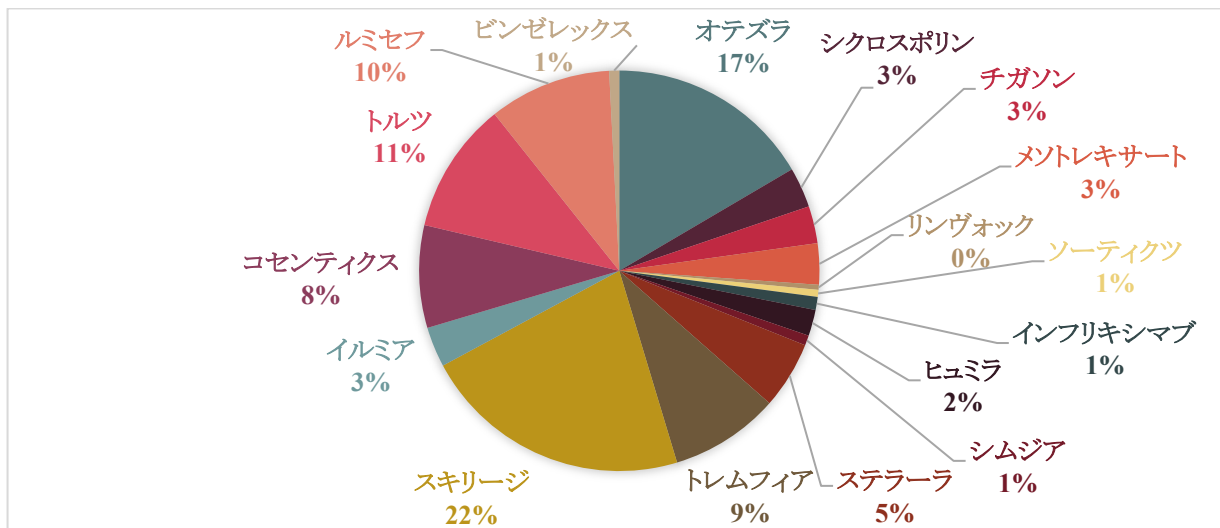


全体 2,440 名(男性 1,700 名、女性 740 名)、平均年齢は 60 歳でした。

関節炎の病型は末梢関節炎(指などの関節が腫れ、進行すると変形が残る)が 85%と多く、指炎(指がソーセージのように腫れる)32%、付着部炎(アキレス腱や足底、膝の内外側などが腫れる)26%、体軸病変(脊椎や仙骨関節の痛み、進行すると変形が残る)15%でした。

現在の乾癬の全身治療(尋常性乾癬)

全体 1,233 名

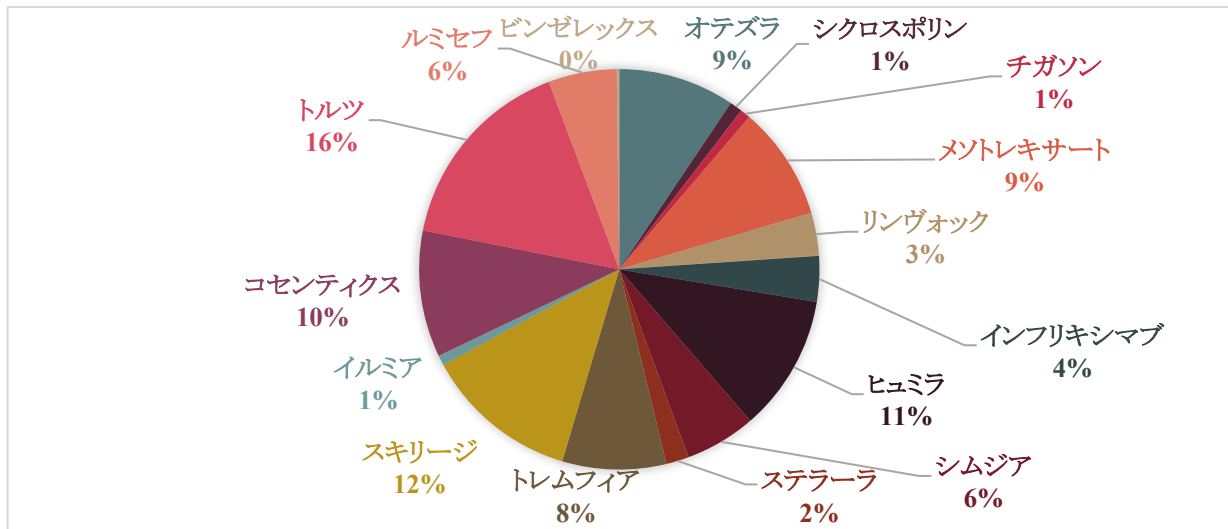


乾癬の全身治療(内服・生物学的製剤)を行っている方は 2,440 名中 1,855 名でした。

全身治療を行っている尋常性乾癬の方は 1,233 名で、内服薬のオテズラ、生物学的製剤のトレムフィア、スキリージ(IL-23 阻害薬)、トルツ、ルミセフ(ともに IL-17 阻害薬)がよく使用されていました。新薬のソーティクツ(Tyk2阻害薬)やイルミア(IL-23 阻害薬)を使用している方もいました。

現在の乾癬の全身治療(乾癬性関節炎)

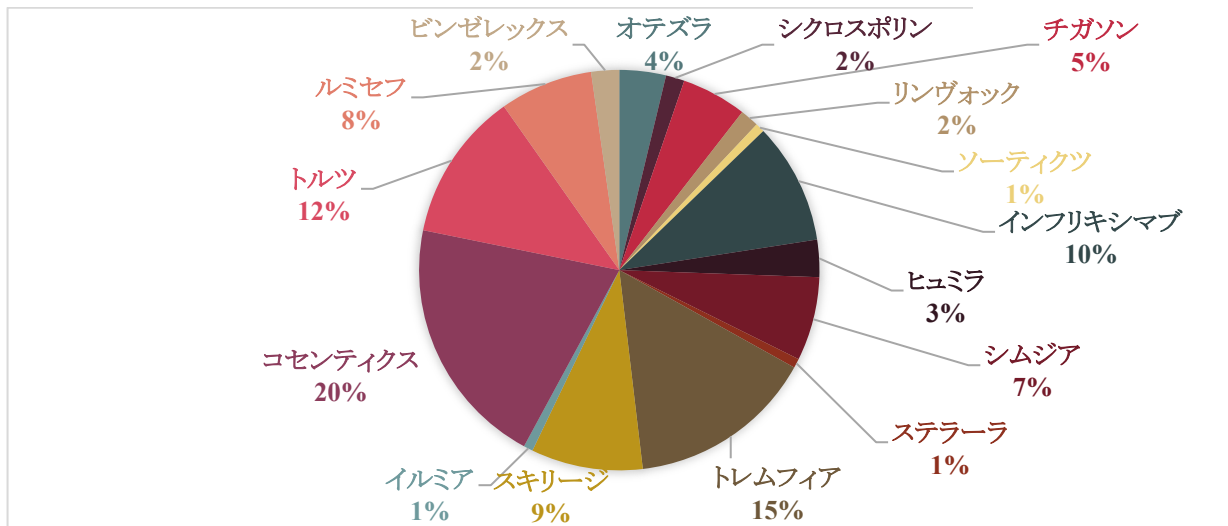
全体 489 名



全身治療を行っている乾癬性関節炎の方は 489 名で、内服薬のオテズラ、メソトレキサート、生物学的製剤のヒュミラ (TNF α 阻害薬)、スキリージ (IL-23 阻害薬)、コセンティクス、トルツ (ともに IL-17 阻害薬) がよく使用されていました。メソトレキサートは他の薬剤との併用では 21% で使用されていました。新規内服薬のリンヴォック (JAK 阻害薬) を使用している方もいました。

現在の乾癬の全身治療(膿疱性乾癬)

全体 134 名



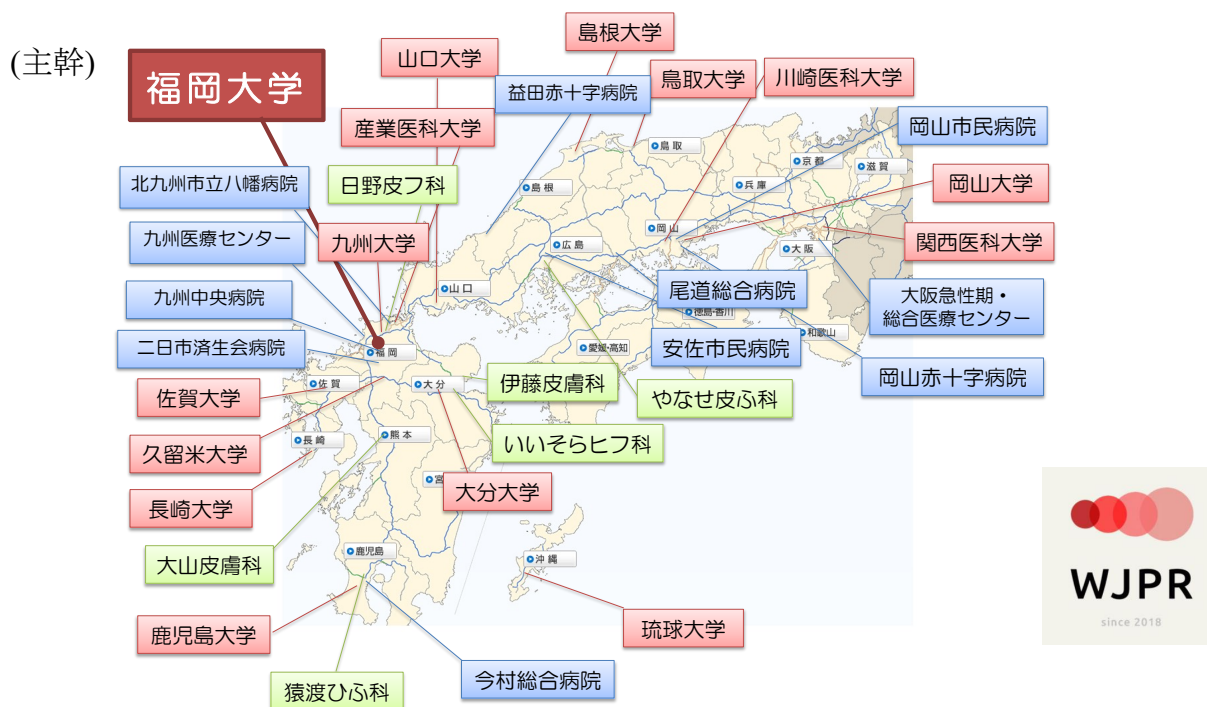
全身治療を行っている膿疱性乾癬の方は 134 名で、生物学的製剤のインフリキシマブ (TNF α 阻害薬)、トレムフィア、スキリージ (ともに IL-23 阻害薬)、コセンティクス、トルツ (ともに IL-17 阻害薬) がよく使用されていました。以前から使用されている内服薬のチガソンは単独では 5% ですが、他の薬剤との併用では 10% で使用されていました。

～ミニコラム～ 特定の部位に皮疹があると生活の質が下がる！？

乾癬の皮疹はどこにでもできますが、治りにくかったり、人目についたりなどして特に気になる部位があると思います。その部位として代表的なのは頭、顔、手の平と足の裏、陰部、爪ではないでしょうか。昨年の継続調査で、それらの部位に皮疹がある方は、ない方に比べて、乾癬の自己評価が低く、生活の質が落ちていることがわかりました(※)。プライベートな部位の皮疹は主治医に直接言いにくいかもしれませんから、看護師に伝えたり、継続調査のアンケートに自由に記載してみてください。乾癬の治療を見直す基準として、「治りにくい部位がある」や「生活の質が落ちている」ことは重要なポイントになります。皆さんがそれぞれに合った治療を受けて、より良い状態でお過ごしになることを願っています。

(※)患者さん評価で乾癬が中等症以上と回答した割合:特定部位に皮疹がある方 64%、ない方 31%
生活に支障があると回答した割合:特定部位に皮疹がある方 56%、ない方 29%

【研究協力機関 (2023年9月時点)】



研究会のHPには理事長挨拶、事業案内などを掲載しています。
研究報告書のバックナンバーを見ることができます。

<https://npo-wjpr.com> (QRコードは右)



研究会の活動は、日本乾癬学会や複数の製薬会社からの寄付によって運営されています。
病型別に使用者が多い薬剤を紹介しましたが、特定の薬剤の使用を促すものではありません。

発行日:2023年9月30日

作成者:NPO 法人西日本炎症性皮膚疾患研究会理事 鶴田紀子(北九州市立八幡病院)